

令和元年度



3月



右田中学校だより

防府市立右田中学校

TEL 22-0984

全校生徒401名

新型コロナウイルス対応のための臨時休校

新型コロナウイルスへの感染拡大防止に向け、国から全国一斉に学校を臨時休校するよう要請があり、防府市立各小・中学校でも、児童生徒の健康安全を最優先させるため、令和2年3月2日（月）から令和2年3月26日（木）を臨時休校としました。今年度最後の授業日となった、2月29日（土）、3月1日（日）の2日間は、午前中3時間の授業とし、学年最後の学級活動や、教室の環境整備、3年生は、卒業式の予行と公立高校受験の事前指導などを行いました。

3月末までは、行事や部活動等も中止して、不要不急の外出を控え、感染拡大防止を優先に考えて行動するよう、生徒にも指導しています。

第73回卒業式 ～142名の巣立ちのとき～

3月7日（土）、3年生142名が、義務教育9年間の全課程を修了して、卒業しました。卒業した3年生は、生徒会スローガンを「想魂～おもいだま」と定め、様々な行事に心を込めて、気持ちを一つにして取り組みました。今年度末で、本校卒業生の総数は1万1340名となります。

今年度は、新型コロナウイルス対応のため、式には、卒業生、保護者、教職員のみが参加しました。手指消毒や座席の間隔を空けるなどの配慮をし、シンプルで、かつ、心を込めた卒業式で、3年生を送り出すことができました。卒業生退場の音楽として、参列できなかった在校生が、登校最終日に全員で合唱し録音した「時を越えて」（♪君の夢が一つかなおうとしているね 熱い思い 重ねて たどり着いた場所・・・）が流され、思い出深い卒業式となりました。

卒業記念品として、令和元年の卒業年度が書かれたテント一張が贈呈されました。夏の暑さに負けず、演舞やダンスに全力を尽くした卒業生を思い出しながら、末永く大切に使用させていただきます。式後のお別れ学活では、各教室で、在校生からの「部活動メッセージ」、転任された先生方からの「お祝いメッセージ」が放映されました。

令和元年度 防府市中学校卒業証書授与式における市長祝辞

本格的な春の到来を感じさせるこの佳き日に、卒業証書授与式を迎えられた卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんは、この三年間、学習や部活動に精一杯取り組んでこられました。また、この一年間は、自分の将来を見据えながら悩み苦しむこともあったのではないのでしょうか。しかし、そうした経験を積み重ね立派に成長され、今こうして、義務教育修了の証である卒業証書を手に入れました。

保護者の皆様におかれましては、心も体も立派に成長されたお子様の今日の日の姿を御覧になり、感慨もひとしおのことと拝察いたします。お子様の御卒業を心からお祝い申し上げます。

さて、本市におきましては、今年の夏に開催される2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、セルビア共和国のホストタウンとなっています。世界ランキング上位のバレーボールチームが本市で合宿する予定です。ぜひ、卒業生の皆さんもおもてなしの心で選手を迎え、一流選手のプレーを間近で見いただければと思います。東京オリンピック・パラリンピックに出場する選手たちの多くは、たくさんの困難に直面しながらも歯を食いしばり目標に向かって血のにじむような努力を積み重ねてきました。卒業生の皆さんにも、それぞれの進む道において、大きな壁が立ちただかることがあるかもしれません。一人では乗り越えられない壁もあるかもしれません。しかし、仲間や家族、新たな出会いを大切に、自分の生きる道をしっかりと見つめ前進していくことで、道は拓けていくはずで

今、世界中の人々が協力して新型コロナウイルスの拡散を封じ込めようとしています。私達は、この困難を必ず克服します。そしてその先には、大志を抱き、明日の社会を力強く築いていこうとする皆さんの姿があると信じています。

終わりにになりましたが、卒業される皆さんの新たな門出に心からお祝いを申し上げるとともに、貴校のますますの御発展をお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

令和二年三月七日

防府市長 池田 豊



卒業式校長式辞

右田ヶ岳から吹く風に、春の気配を感じる今日、こうして無事、卒業証書授与式が挙行できますことを、皆さんと共に喜びたいと思います。3月2日から、春休みを含めて、一ヶ月余りの休校という、前例のない状況の中で、何としても卒業式をして、3年生を笑顔で送り出したいという気持ちは、例年以上に高まったように思います。さて、只今、晴れて卒業証書を手にした、142名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、令和の年号の卒業証書を受けた、最初の中学生です。

今日は、歴史の大きな節目にある皆さんに、イギリスの歴史学者である、アーノルド・トインビーが唱えた法則についてお話します。トインビーは「歴史の研究」という本の中で、文明の中心は、いつも端へ端へと移動すると言っています。世界最初の文明は、エジプトなど大きな川のそばに生まれました。ところが、その繁栄は長くは続きません。やがて、文明の中心は、海の向こうにある、狭い半島のギリシアへ、さらにローマへと移動します。産業革命の後には、北の海を渡って、小さな島国であるイギリスに中心が移ります。またさらに、その次は、大西洋を渡って、植民地だったアメリカへと、繁栄の中心が移動して行くのです。いずれも、文明の中心地から見れば、ずいぶん端っここの地域が、順に順にと、栄えていくことが分かります。

学生の頃、歴史学研究室にいた私は、この学説がとても気に入りました。当時私は、本州の端っこにあるこの山口県で、明治維新がなぜ起こったのか、その答えを探していました。「なるほど、中心よりも、端っこにこそ、新しい可能性があるのだ」と、密かに納得したのです。

昨年度、右田中学校に着任して、再び、その思いが、一層強くなりました。右田は、駅や市役所から見れば、佐波川の川向こうにあり、中心からは離れています。一方で、山口市とはトンネル一つで結ばれています。山口市に通勤や通学で通う人も多い地域です。インターチェンジも近く、県内の他のまちへの移動にも便利です。他の地域と結びつく場所のことを、地理学では結節点と言います。トインビーは、この結節点の例として、港町である、香港やシンガポールを挙げています。そして、アジアとヨーロッパの異なる文明が交わることで、互いに刺激しながら、新しい文化が生まれた、と説明しています。考えてみれば、右田という地域も、こうした結節点としての要素をもっています。そして、新しい発展の可能性に満ちた場所でもあるのです。

もう一つ、端っこには、大きな可能性があるという、社会心理学の考えを紹介しましょう。皆さんが、これから進学して、さらに就職して、新しい環境になったとき、最初は、その集団の端っこに立っています。ドキドキした気持ちの中で、「ここはどんなところかな、どうやったらみんなとなじめるかな」と、考えます。そして、「これはすごいな」とびっくりしたり、「もっとこうしたら良いのにな」というアイデアが湧いてきます。人は、新しい環境で、異なる考えに出会ったとき、変化し成長するのです。ですから、その生活に慣れて、なんでも当たり前を感じるようになった頃に、クラス替えや転勤が必要になるのです。

私たちは、大きな歴史の流れの中でも、また個人としても、中心とその端っこを行ったり来たりしながら、成長していく、と言うことが分かります。そして、端っこにいるときは不安がある反面、成長のチャンスであることを、歴史が証明しています。この右田という地域のもっている強みと、皆さんの可能性を信じて、新しい世界へ、一步を踏み出して行ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。国難とも言える感染症対応の中、保護者の皆様の御理解をいただき、シンプルで、かつ、心を込めた卒業式ができましたことを、深く感謝しています。また、これまで、本校の教育活動に、深いご理解と力強いご支援を賜りましたことに対し、教職員とともに厚くお礼申し上げます。では、未来に向かって歩み出す卒業生の皆さんの人生が、輝かしいものになりますようお祈りし、式辞といたします。

※右田中学校のホームページにもアクセスしてください。

右田中学校

検索

<http://www.c-able.ne.jp/~hofumigi/>